資料15.藤末健三「補論1　仮想経済と国家」ヴィリ・レードンヴィルタ、エドワード・カストロノヴァ（井川歩美訳）『仮想経済のビジネスデザイン』サイゾー,2020,pp.298-314

補論1「仮想経済と国家」
・ノマド（遊牧民）企業は「サイバーネーション」になる
ノマド化し、国家に所属しない企業はどうなるか。筆者は「仮想国家（サイバーネーション）」になると見ている。つまり、大きな流れとして、Google、Appleといったプラットフォーマーが国家のような機能を持つのである。
国家は国民に安全と安心を与えることが目的である。その役割は大きく二つある。一つは、警察機能や防衛の機能、国民の安全を守る機能である。もう一つは、社会保障の機能、国民に安心を与える機能である。
(中略)
そして、サイバーネーションにとって最も重要なのは「通貨発行権」である。つい最近まで、通貨の価値は「交換される金」によって保障されていた。これを「兌換紙幣 convertible money」という。ちなみにアメリカドルは、1971年のニクソン・ショックまでは金と兌換できる「兌換紙幣」だった。現在は、通貨の価値が「金に交換できるという裏付け」ではなく、「国の信頼」によって担保されるようになっている。これを「不換紙幣 fiat money」または「信用紙幣 faith money」と呼ぶ。日本の円札は「日本銀行券」と呼ばれ、日本政府が保証する日本銀行によって発行されている。
こうした国の信頼で発行される通貨（紙幣）の対極にあるのが、ビットコインのような仮想通貨（法律上は「暗号資産」）である。仮想通貨は「国の信用」ではなく「暗号技術」への信用によって成り立っている通貨である。この仮想通貨の特徴は、国境を越え、銀行口座がなくとも、インターネット上で交換ができる、ことだ。つまり、国境を越え、人から人に（P2P）で価値を低コストで移転できるのである。
これは世界の金融を根本的に変える可能性がある。つまり、銀行や証券会社や保険会社が不要になる可能性があるからである。世界中の人々がインターネット上で送金でき、信用情報も管理されていれば、銀行や証券会社を通さずに個人や法人に資金を提供することが可能となる。また、保険も、会社がなくともネット上に相互扶助のシステムをつくれば実現可能である。仮想通貨の導入をいち早く進めようとしたのが、Facebookである。2019年6月にFacebookは仮想通貨「Libra」を発表した。発表時点において、リブラはFacebookではなく「リブラ協会」というコンソーシアムが運営することになっており、リブラ協会は設立時にVISAやPayPal、eBay、Uberなど28企業が参加している。そして、リブラの目的は「金融包摂」（Financial Inclusion）である。Facebookの発表によると、世界には銀行口座を持っていない世界中の人々に金融サービスを利用できる環境を提供するのがリブラである。
私は、この発表を読んだときに、まさしくFacebookが「サイバーネーション」に向け歩みだしたと感じた。2019年8月時点のFacebookのアクティブユーザーは24億人。つまり2018年の世界の人口73億人の33％、世界の3人に1人がFacebookユーザーとなっている。
このリブラ計画に一番敏感に反応したのは世界の中央銀行である。コントロールが効かな

いリブラが普及すれば、中央銀行は、公定歩合や準備預金制度、公開市場操作、金利操作などによる金融引き締め/金融緩和といった金融政策を十分に行えなくなる。また、日銀などは日銀券という利払い負担がない債務と引き換えに、国債などを買い取り、利子所得を稼いでいる（**シニョリッジ：通貨発行益**）。つまり、リブラの流通量が増え、日銀券の発行量が減るとシニュレッジが減ってしまうのである。

当然、世界の中央銀行、特に世界に基軸通貨ドルを発行する連邦準備制度理事会（FRB）は即座に「リブラに対する懸念」を表明した。また、2019年6月に日本で開催されたG20金融サミットにおいても、世界の中央銀行や金融監視当局から「資金洗浄防止や消費者保護の観点からの懸念」が示されている。筆者はG20に参加し、米連邦準備理事会副議長のクオールズ氏と一対一で話す機会を得た。クオールズ氏は、リブラをはじめとする仮想通貨について「その可能性は大きいと考えるが、規制の枠から外れることは認められない。政府機関や国際機関が厳重に監視すべきである」と答えていた。個人的にも世界通貨の発行権をアメリカ政府やFRBが他社に渡すとは思えない。これから仮想通貨を巡っては、「国家の役割」という視点から多くの議論が生まれてくるだろう。

このように企業が国境を越えて「国が行うべき安全の提供や安心の提供や通貨の発行を行い」だしたとき、ノマド化した人々は、物理的な国ではなく、仮想空間の国を選ぶかもしれない。

(略)